

1 関係機関等との連携・ネットワーク強化

番号	項目	内容
1	関連機関等とのネットワークの構築・連携強化	<p>【平成30年度取組結果】 平成30年8月22日(水)さらに平成31年2月13日(水)に、関係機関、民間団体、行政等で構成された「あま市自殺対策ネットワーク会議」を開催した。会議での情報交換等を通じて各機関の状況確認を行い、地域全体で自殺対策に取り組む気運を高め、あわせて体制を確保することにつなげることができた。</p> <p>【令和元年度取組計画】 全体で協議する「あま市自殺対策ネットワーク会議」を年1回の開催(令和元年5月20日(月))とし、自殺対策の取り組みを進めるに当たり、必要に応じ個別に関係機関との打ち合わせ・検討を重ねていき、連携を深める。</p>
2	相談等を行っている民間団体等の活動支援	<p>【平成30年度取組結果】 津島保健所及び市民活動センターへ関係団体等の活動状況の把握を行った。 また、情報収集・提供、連携等の活動支援について、来年度以降の支援のあり方について検討を行った。</p> <p>【令和元年度取組計画】 相談等を行っている民間団体等の活動状況を継続的に把握し、情報収集・提供することで情報を共有し、提供可能な支援について検討する。</p>

2 気づきのための人材育成

番号	項目	内容
1	職員の資質向上	<p>【平成30年度取組結果】 平成31年1月26日(土)、南山大学森山花鈴氏を講師に職員約400人を対象に「自殺に関する知識」「自殺対策の重要性」について研修を開催した。 職員の自殺に対する認識及び理解を確認するため、アンケート調査を実施した。</p> <p>【令和元年度取組計画】 自殺対策本部幹事会部会員に、ゲートキーパー養成講座に参加していただき、自殺に対する知識を深め、自殺対策の推進に役立てる。</p>
2	民生委員・児童委員等におけるゲートキーパーの養成促進	<p>【平成30年度取組結果】 平成30年11月6日(火)、愛知いのちの電話協会事務局長兼田智彦氏を講師に(美和地区)民生委員・児童委員等39人を対象に、「ゲートキーパー養成講座」を開催した。講座アンケートの結果、受講者の9割以上から自殺や自殺に対する理解が深まったと回答いただき、講座を通して、「ゲートキーパー」の役割を担う地域支援者を増加させるとともに、自殺の危険を示すサインに気づき、適切な対応を図ることができる人材を養成することにつながることができた。</p> <p>【令和元年度取組計画】 昨年に引き続き、愛知いのちの電話協会事務局長兼田智彦氏を講師に(七宝地区)民生委員・児童委員等を対象に、「ゲートキーパー養成講座」を開催する。また、令和2年度に向け、ゲートキーパー養成講座の対象者を広げていけるよう、対象者について検討していく。</p>

3 市民への普及啓発

番号	項目	内容
1	自殺や自殺関連事象等に関する正しい知識の普及啓発	<p>【平成30年度取組結果】 平成30年9月1日(土)、8日(土)、15日(土)開催の「あま市長寿を祝う会」及び平成31年1月13日(日)開催の「あま市成人式」において、リーフレットの配布を行い、自殺に関する正しい知識、相談窓口情報等の普及啓発を行った。 (啓発数)平成30年度 3,100人(長寿を祝う会 2,200人 成人式 900人)</p> <p>【令和元年度取組計画】 引き続き「あま市長寿を祝う会」及び「あま市成人式」において、リーフレットの配布を行い、自殺に関する正しい知識、相談窓口情報等の普及啓発を行う。 また、出前講座でテーマ「こころの健康について」を設けて市民に対し、自殺予防も視野に入れたこころの健康についての知識の普及をはかる。</p>
2	アルコールに関する正しい知識の普及啓発	<p>【平成30年度取組結果】 11月11日(日)開催予定の「健康福祉まつり」において、民間団体(断酒会)の協力により、自身のアルコールに対する適応性を把握し、飲酒による事故等の未然防止に役立てていただくためのアルコールパッチテストやアルコールに関する正しい知識の普及啓発、相談等を行った。 (啓発数)平成30年度 196人</p> <p>【令和元年度取組計画】 引き続き、11月10日(日)開催予定の「健康福祉まつり」において、民間団体(断酒会)の協力により、自身のアルコールに対する適応性を把握し、飲酒による事故等の未然防止に役立てていただくためのアルコールパッチテストやアルコールに関する正しい知識の普及啓発、相談等を行う。 特定健診結果説明会や、母子手帳発行時で把握したアルコール過剰飲酒者に対し、指導助言を実施する。 広報で適正飲酒や酒害などに関する記事を掲載し、アルコールに関する正しい知識の啓発をする。</p>

4 ハイリスク者に対するアプローチ・支援

番号	項目	内容
1	市内精神科医療機関等との連携による相談事業の実施	<p>【平成30年度取組結果】 自殺の原因として多くを占める、うつ病をはじめとする心の病についての相談体制を充実させるため、市内精神科医療機関との連携による相談事業の早期実施に向けて、津島保健所や他市の実施状況の調査研究を行った。 また、既存のこころの相談事業室と本相談事業のすみわけ(対象者や相談内容の整理)や相談事業担当保健師に対する研修を行った。</p> <p>【令和元年度取組計画】 市内精神科医による「精神保健相談会」を2回実施予定。相談内容により、断酒会に協力を得て、アルコール相談も同時実施する。 臨床心理士による「こころの相談室」を月1回実施する。</p>
2	相談窓口情報の広報対象者数の増加	<p>【平成30年度取組結果】 庁舎内において実施する各種相談事業のいずれの場においても、対象者の問題に応じた適切な各種相談窓口を紹介できるよう、相談窓口周知用のチラシ案を作成した。 今後、必要に応じてチラシが配布できるよう、幹事会(部長級職員及び関係課長による会議)及び幹事会部会(各課の担当者による会議)を通して関係課に周知を行った。</p> <p>【令和元年度取組計画】 平成30年度に実施した職員研修、ゲートキーパー養成講座の受講者へのアンケートで自殺対策で大切だと思うことは「相談場所のわかりやすい周知」がともに一番多かったという結果を受け、平成30年度に作成した相談窓口周知用のチラシについて、関係課での配布状況について確認し、内容や広報対象者について検討する。</p>

4 ハイリスク者に対するアプローチ・支援

番号	項目	内容
3	うつ病の早期発見	<p>【平成30年度取組結果】</p> <p>○乳児訪問時にエジンバラ質問票を593件実施することで、産後の母の抱えている問題を把握するきっかけとなり、その後の支援へつなげることができた。また医療機関との連携により、ケースの早期把握ができ、適切な支援・助言をすることができた。</p> <p>○11月11日の健康福祉まつりにおいて、ストレスチェックコーナーの待ち時間にうつ病のスクリーニングを94名に実施した。94名中うつ傾向の強かった方等の3名に声をかけ、自殺予防のリーフレット及び自殺関連の相談窓口の一覧表を配付した。</p> <p>○津島保健所地域・職域連携推進事業作業部会に参加し、事業所への健康づくり支援について検討を行った。</p> <p>【令和元年度取組計画】</p> <p>乳幼児訪問、健康教育などの場において、うつ病や心の状態を把握するスクリーニングを実施し、うつ病等の早期発見・治療につながるように適切な情報提供や、必要に応じた支援を行う。</p> <p>○乳児訪問時にエジンバラ質問票を年間700件実施する。</p> <p>○各種教室内でスクリーニングを100件実施する。</p>

5 児童生徒のSOSの出し方に関する教育の推進

番号	項目	内容
1	SOSの出し方に関する教育の調査・研究	<p>【平成30年度取組結果】 「SOSの出し方に関する教育」や生命を尊重する心の育成が自殺予防につながることに十分理解されるよう、学校に周知を行った。 また市内12の小中学校において、全校生徒もしくは一部の学年(合計4,239人)を対象に、リーフレットの配布や保健室前の設置、全校集会などの場においてSOSの出し方に関する教育を実施した。</p> <p>【令和元年度取組計画】 各学校におけるこころの健康づくりや学校保健委員会の内容等を把握するとともに、「SOSの出し方に関する教育」の市内全小中学校での実施に向け、対象及び実施方法等を担当者と協議を行う。 また、「SOSの出し方に関する教育」や生命を尊重する心の育成が自殺予防につながることに十分理解されるよう、学校に周知を行う。</p>